

令和 2 年度事業報告

1 事業の概要

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染の第 2 波、第 3 波の影響を大きく受け、全ての交流行事及び研修会等の中止を余儀なくされ、感染予防対策に終始した年となった。この間、ご利用者とご家族には面会の制限や外出の制限等楽しみの少ない不安な状況を強いることとなった。しかし、この感染が拡がる中で職員やご利用者が罹患することなく無事に過ごせていることを一つの成果として報告したい。

事業の結果としては、ショートステイ、デイサービス、ホームヘルプサービス等の在宅サービスがこの新型コロナウイルス対策のため、稼働率を下げざるを得なかった為、収入面での減収をきたしている。

また、新型コロナウイルス発生時に備えて、コロナ対応班を編成し特別な訓練と必要備品を備えるなど、万が一への対応に万全を期した。

また、日々の報告、連絡、相談といった連携の強化を図り、情報の収集、周知徹底と対応策への迅速な実践に全職員で努力した。

施設全体のクリーンな環境を作るための機器の導入やマニュアルの整備と実践に取り組んだ。

制限のある中においても、ご家族と入所者の繋がりを継続するために面会ブースの新設やオンライン面会など様々な工夫を行った。

法人のもつノウハウを地域に還元し、地域に貢献する『地域貢献事業』の内、年 5 回をシリーズとする市民講座は中止とし、地域住民のライフラインとなっている毎日型配食サービスは継続し、地域の要援助高齢者の生活を支えた。

愛誠会のコンセプトとして掲げる自立支援やプライバシーの完全保護を実践し、質の高いケア水準を維持向上させるため職員の教育、各種会議・委員会等を集合型から蜜を避けるために分散し、延期、中止、自己学習に変更したりと感染予防対策を講じながら柔軟に継続し内容充実に努めた。

小規模多機能型居宅介護事業所福の木は、ケアの質向上、職員教育に重点を置きながら、地域に密着した施設として、機能を柔軟に活用し、地域住民のニーズにあった支援を実践した結果、利用率を伸ばし安定した運営となった。

地域密着型サービスであるグループホーム心は、ご家族の面会制限の中で、ご利用者が落ち着いた暮らしをされていることをお伝えするために、DVD を個別に作成しそれぞれのご家族にお送りする様工夫した。

外部との交流が断たれた中においても信頼される経営を目指し、広報紙『じょいふる』を通してご利用者と職員がコロナ禍を生き活きと生活している様子を地域や関係者に公開するとともに、アンケート調査を実施し、クリーンでオ

ー プンな企業のイメージアップに努めた。

事業所内託児施設の運営等職員の子育て支援に努力し、子育て応援企業として内外に啓発を行うと共に、ワークライフバランスへの取り組みについても維持継続し、職員の労働環境の改善や福利厚生を充実させた。

災害時の対応について、施設利用者のみならず地域の拠点としての機能を強化するため、備蓄用備品及び食料品の確保及び管理に努めると共に、広域災害ネットワーク・サンダーバード岡山支部を受け活動の充実に努めた。

2 事業報告

(1) 特別養護老人ホーム唐松荘

ア 利用者主体の質の高いサービス提供を実施するため、プロジェクトA、プロジェクトBをはじめとする各種研究研修会議、QC会議を毎月開催し、サービスの自己評価やケアサービスの質向上に努力した。

イ 職員の倫理教育に努め、利用者の人権を尊重、プライバシーの保護、自立支援、自己決定に基づく生活形成が援助できるよう、ケアプランの充実とそれに基づくケア提供の徹底を図った。

ウ 利用者や家族と常に対話を持ちながら、利用者側の意志や希望を十分反映したケアに心がけ、信頼関係の確立に努めた。

エ 面会ブースを新設し、ご家族との時間が過ごせるように努めた。

オ iPadを活用し、オンライン面会やラインでの情報提供など、ご家族と距離が開かないよう、また安心につながるよう努めた。

カ 感染症の予防についての研修を充実させ、職員へ周知徹底し予防に努めた。特に新型コロナウイルス対策に努めた。

キ ユニットケアの充実と、利用者の快適な生活環境の整備に努めた。

ク ケアノワ委員会によるテレビ番組を毎月作成し、利用者主体の情報提供が、利用者の生活の広がりや豊かさを高めた。

ケ 毎日型食事サービスを365日実施し、地域の高齢者の生活を支援した。

コ 災害時における拠点施設としての機能強化に努めた。

(2) 唐松荘ホームヘルプステーション

ア ケアプランに沿ったサービス提供体制の充実を図った。

イ 利用者に誕生日のプレゼントを贈るなど、心のこもったサービス提供に努めた。

ウ 関連機関との連携の強化を図った。

エ レスパイトケアの充実を図った。

オ 内部研修や個別研修を充実しヘルパーの資質向上に努めた。

カ 職員体制を充実させ安定した運営に努めた。

(3) 唐松荘短期入所生活介護事業所

- ア 利用者の実態に合わせた送迎サービスや柔軟(曜日・時間制限なし)な受入れを行い利用促進を図った。
- イ 関連機関との連携の強化を図った。
- ウ 認知症高齢者の受け入れに努力した。
- エ 専用ベッドのみでなく空ベッドを利用し、増加するニーズに対応した。
- オ 介護者との連携を密にし、施設と在宅とが一体となったケアや健康管理の実践に努めた。

(4) 唐松荘デイサービスセンター

- ア 重介護利用者の利用促進を図った。
- イ 年間利用者の増員に努力し、一日平均28.3人の実績があった。
- ウ 季節行事や趣味活動を充実させ、変化のあるサービスの提供に努めた。
- エ 地域の高齢者の健康づくりを目的として行っていた唐松荘デイサービスセンター杯グランドゴルフ大会は新型コロナウイルス対策のため中止した。
- オ 個別処遇サービスプランを作成し計画に沿ったサービスの提供に努めた。
- カ 認知症高齢者・独居世帯高齢者の急増に対し、家族・ケアマネージャー・関係機関との連携強化に努めた。

(5) 居宅介護支援事業所

- ア 地域の高齢者の実態把握や福祉サービス情報の提供等により、福祉サービスのスムーズな利用促進に努めた。
- イ 介護支援専門員3名体制により、介護支援サービスの充実に努めた。
- ウ 地域住民へのきめ細やかなニーズ対応を通して、業務への理解と信頼を深めることに努力した。
- エ 介護保険者(市)の訪問調査を受託し、制度の推進に協力した。

(6) グループホーム心

- ア 令和2年度は利用率 100%の運営となった。
- イ 職員の倫理教育に努めるとともに認知症介護の専門性を高めるため毎月研修を行い、利用者の人権を尊重、プライバシーの保護、自立支援、自己決定に基づく生活形成が援助できるよう、ケアプランの充実とそれに基づくケア提供の徹底を図った。
- ウ 利用者や家族と常に対話を持ちながら、利用者側の意志や希望を十分反映したケアに心がけ、信頼関係の確立に努めた。
- エ コロナ禍で面会の制限を克服するため面会ブースを新設するとともに、

個々のご家族に向けてご利用者の日頃の様子をDVDに編集しお送りした。

オ 運営推進会議を2月に1回開催し、地域に密着した施設運営に努めた。

(7) 小規模多機能型居宅介護事業所 福の木

ア 小規模多機能施設の機能を活かしたケア実践やサービスの在り方を研究しケアに活かすとともに認知症介護研修を行い、ケアの質を向上させることができた。

イ 利用者の様々な障害に応じ、自立支援を試みながら在宅生活の継続につながるよう取り組んだ。

ウ 家族とのコミュニケーションを充実させニーズを把握すると共に、家族の介護負担の軽減を図り、家族支援の機能を強化した。

エ 運営推進委員による外部評価を実施し、より具体的な課題を明確にするとともに、発展的取り組みの起点とすることができた。

オ 運営推進会議を中心に地域との情報交換を行い繋がりを強化した。

カ 面会を安全に行っていただくため、面会ブースを新設した。

(8) ひだまり園（事業所内託児施設）

ア 乳幼児個々の保育計画、年齢別保育計画、年間計画等に基づき、適切で密度の濃い保育に努めた。

イ 家庭と連携し、乳幼児の健康管理・成長状態についての把握、指導に努めた。

ウ 遊具の安全、衛生等の環境整備に努めた。

エ 母体施設の行事に積極的に参加し、高齢者との交流に努めた。

オ 新型コロナウイルス予防対策の強化を図った。

令和 3年6月9日提出

社会福祉法人 愛 誠 会
理事長 渡 部 勝 吉